

→カーバーンと呼ばれるモーケンの伝統的な船。舳先(へさき)と艫(とも)が又状になっているのが特徴的。2004年末の大津波で多くのカーバーンは破壊され、現在では見かけることも少なくなった

写真提供:筆者(以下も同じ)

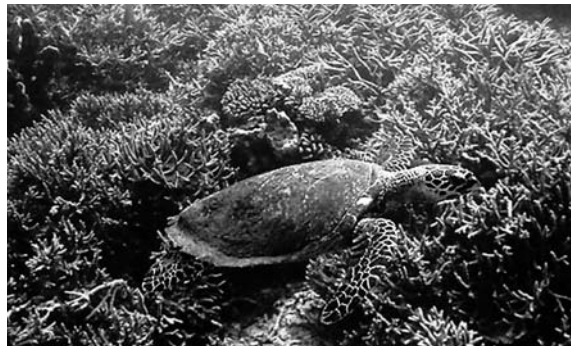
↓アンダマン海に浮かぶスリン諸島はサンゴ礁に囲まれており、多くの生物が海中で暮らしている。ちよっと海に潜れば、極彩色の魚類だけでなく、サメやウミガメにも簡単に会える



リレーエッセイ  
海外派遣  
専門家たより

# 「漂海民」モーケンの 初婚事情

タイのアンダマン海で結婚について考える



すずき ゆうき  
鈴木佑記

上智大学大学院外国語研究科  
地域研究専攻博士後期課程



すずき ゆうき ●現在、タイ王国チュラロンコーン大学社会調査研究所に所属。専攻は文化人類学、東南アジア海域研究。ジャパンファウンデーションのアジア次世代リレーダーフェローとして、2006年1月15日～07年1月14日にかけてインド洋大津波被災後のモーケン集落を調査。現在もタイにて調査を実施中



モーケンの居住域

「その歳で、なんでまだ結婚しないんだ？」

私は29歳の日本人男性。推定年齢60歳のモーケン男性が驚きの表情をみせながら問いただしてき。モーケンとは、かつてはカーバーンと呼ばれる伝統的な船を住居にし、アンダマン海域で移動性の高い生活を送っていた人々である。思いがけない疑問をぶつけられた場所はタイ王国南部のパンガー

県内にあるS寺。この寺院には、2004年12月26日に発生したインド洋地震・津波で被災した大勢のモーケンが避難しており、聞き取り調査をしている最中の唐突な質問だった。実は、これが初めてのことではない。先の問いの返答に対し、「それなら紹介してやろう」と言われることも少なくない。

**調査のため、タイ領アンダマン海沿岸と島々を歩きまわるようになって約4年が経過した。この間に、実に多くのモーケンと出会った。聞けばほとんどのが10代で結婚しており、子供を育てている。私がとりわけお世話になっている、あるモーケン世帯では夫ジャウが42歳、妻ジュリーが38歳で、すでに3人の子供と2人の孫がいる。2人が結婚したのは25年前、それぞれ17歳と13歳のころだった。2人が結婚した**

→モーケンの子供たちの手にかかれば、何でも遊び場になる。建築中の杭上家屋で木登り遊びをして大はしゃぎ



ときの状況は次のとおりである。

当時、ジャールウは義父と船上生活をしており、立ち寄った先のモーケン集落でジュリーと邂逅した。両者の親族間で話がまとまり、ジャールウとジュリーは言葉交わしたこともないのに結婚することになった。結婚式は、ジュリーが住む高床式の杭上家屋で行なわれ、親族が一同に集まって食事をしていたら、家が半壊した。それまでに入ったことのない人数が家に上がったため、重量に耐えきれず、床下の支柱が折れたのである。そんなエピソードを、ジャールウは笑

いながら語ってくれた。

この逸話は、今のよう  
に陸地定着していないこ  
ろの「漂流民」モーケ  
ンが結婚する一つの経緯  
を示しており、興味深い。  
海上での出会いが少なく  
ても、親族間で事が進む  
のであった。家屋が半壊  
した出来事からは、船造  
りとは勝手の違う、建築  
物の建設に不慣れであつ  
た当時の様子を窺い知る  
ことができる。

とはいえ、何よりも10代半ばで結婚している事実がそそられる。近年の日本における平均初婚年齢は男女ともに20代後半であり、タイにおいても男女ともに20代半ばなので早いようにも感じる。しかしながら、日本でも第二次世界大戦前までは10代で結婚するのは当たり前のことであつたし、現在でも20歳前に結婚する者は途上国に多くみられる。このように綴ると、一般によく言われているように「経済的に発展すると晩婚社会になり、発展が

遅れている地域は早婚社会である」などと主張しているみたいだが、そうではない。近ごろ、モーケン社会ではそうした「定説」では説明のつかない現象が起きている。まりこういうことである。

各モーケン世帯の現金収入は増え、以前よりも豊かな暮らしを送るようになり晩婚化が進んでいるが、その一方で早婚化も確認できるのだ。それでは、どうして経済状況が上向きになっているにもかかわらず早婚化しているのだろうか。

理由は海と船にあつた。ジャールウによると、かつてのモーケン社会では、「海で生きるための知識、それに造船や航海、漁撈に関する技術を体得しなければ」男性は結婚することができなかった。そうした知識・技術は、海域世界で生存し、家族を守るための必要不可欠な能力であるからだ。

しかし、現在では、かつてのジャールウのように「漂流生活」をするモーケンはいなくなり、ほとんどの者は「定住生活」をしている。近年、自給自足的な経済生

活から貨幣に依存する経済生活へと移行した結果、漁撈以外の労働に従事する男性が増え、海や船に関する知識と技術が結婚する際の必須条件とはならなくなったのである。04年末には、さらに追い討ちをかけるように大津波がモーケンを襲った。船を失い十分な支援を受けられない者は、海にかかわる生活から遠ざかっていった。

## 現

在、モーケン男性のなかには10代前半に結婚する者が増えてきた。海と船に関する知識がなくても現金を稼ぐことができ、家族を養えるようになったからである。冒頭に登場した推定年齢60歳のモーケン男性はこう語った。「お前（筆者）は結婚するのに遅すぎるが、10代前半は早すぎる。まだまだ知らないことがたくさんある。やっぱり男は18歳ぐらいで結婚するのがちょうどいい」

ちなみにこの男性が主張する自らの初婚年齢は18歳である……。それにしても、私はいつになったら結婚できるのだろうか。30代に突入しても、モーケンからの質問はまだまだ続きそうだ。☺